

麻生区区民会議 第3回若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成24年12月18日（火）午前10時00分～午後0時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第3会議室
- 3 出席者：[若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会委員]
石井委員、金光委員、菅野委員、菅原委員、高橋委員、東川委員、矢野委員、
山田委員
[事務局]
安生企画課課長、白石担当係長、川里、桑原

4 傍聴者 1名

5 議事

(1) 「子育てしやすい環境づくり」

【説明事項】

事務局より、資料1および資料2により、各委員から出た意見とアンケート設問の案について報告した。

コンサルタントより、調査審議テーマの全体像および検討フローについて説明した。

【決定事項】

まずは、既存データ・調査結果を整理した上で、データから見える麻生区の姿を浮き彫りにし、その上でアンケート実施調査項目を精査する（資料は、整理された分析可能なものとする）。

【主な意見】

① 目的と対象などについて

- ・調査の目的と対象を明確にすべき。
焦点は子育て世代（20～40代）が中心。
→ 小中学生への設問は、保護者を対象とすれば、不要になるのではないか。
- ・最終的な「若者が住みたくなるまち」の姿はどのようなものか、という視点も重要。最終型を達成するためにどうしたらよいか、を考えればよいだろう。
→ 例 「麻生区の出生率を1.5から1.8にする」など。

ア 住みたいまち

- ・（不動産屋や雑誌の調査等によると、）全国で「住みたいまち」の第1位は横浜で、第2位は川崎となっている。
- ・「住みたいまち」と「住んでみてよかったまち」とではランキングが異なる。
- ・吉祥寺は、マイルドな面と個性的な面双方を持つことが魅力として映るのではないか。
- ・麻生区は「一軒家で住みたい場所」の第2位となっている。

イ 子どもについて

- ・小中学生が地域でどうつながる（ことができる）のか、というテーマで、一つでも

(提案を) 実現させたい。

- ・少年が地域で活躍するまち、というテーマが重要と考える。

ウ 高校生～大学生 = 『外の目』

- ・旧来の麻生区在住の家族と大学生など区外からやって来た人、双方に話を聞くことが重要である。
 - 高校生や大学生など麻生区外からやって来た人の「外の目」を知ることは重要。
 - 麻生区の学生は「若者」を代表するサンプルと言えるのか。
 - ・子育て以外のテーマを組み込むことで中原区との違いを出したい。
 - ・大学生は、芸術・文化や地域コミュニティに関心がある。
 - **若者に地域に関心を持ち、積極的に関わりを持ってもらいたい。**

エ 子育て世代 = 『定住人口』

- ・学生などの一時的な住民ではなく、定住人口にフォーカスすべき。
- ・定住人口を増やすという意味で、20代～40代の父母に焦点を当てるのが良いのではないか。
 - 幼児については行政の取り組みが充実している、と考える。
- ・「子供を預けて安心して仕事に行ける」ことが、子育て世代にとっては重要な要素である。
 - “病気の子どもでも預かってくれる保育園” など、具体的な提案が必要。

② その他の主な意見

ア アンケートについて

- ・アンケートありきではない。実態の正確な把握が必要と考える。
- ・既存データ・調査をまとめれば、ある程度はカバーできる。既存のものを活用し、「これを聞きたい」という内容に絞ってアンケートをするとよい。
- ・川崎市の既往調査は、必ずしも麻生区の特性を反映していないのではないか。
 - 経年変化・他区比較を見ても、あまり結果に大きな差異はないのではないか。
- ・設問の仕方では回答が大きく異なる。
- ・麻生の魅力と現状の課題を的確に把握しなければならない。
- ・生の声を聞くことが重要。 → 回答結果に麻生区の特徴が出る。
- ・「若者が住みたいまちとはどんなまちか」を把握するためにアンケートを実施すると決めたので、予定どおりアンケートを実施したい。
- ・こども会連合会、青少年指導員会、区PTA連絡協議会など、区内の子ども関連団体へのアンケート・ヒアリングも行った方がよい。
- ・中原区の調査結果まとめは、すっきりしていて見やすい。
- ・アンケートなどの調査をやることで、区民会議の認知度も上がるのではないか。
- ・アンケート(案)の32問は設問数が多いので、精査が必要。

イ 提言について

- ・区民会議からの提案事項については、「地域課題解決型提案事業」として事業化される展開もあり得る。

(2) 「芸術・文化のまちづくり」

【説明事項】

石井部会長より、新百合ヶ丘地域活性化ビジョン策定委員会にて実施された、新百合ヶ丘駅周辺での芸術のまちづくりに関するアンケート調査結果の概要報告を行った。（「しんゆり・芸術のまちづくりによる地域活性化に向けて～しんゆり・芸術のまちづくりのこれまでとこれから～」（NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり 新百合ヶ丘地域活性化ビジョン策定委員会報告書））

→ 知っているイベント、文化施設、まちのイメージ等のアンケート調査が実施された。麻生区民まつり、映画祭、市民館などの認知度が高く、芸術のまちづくりに対しては多くの方が更に進めるべきだと考えているが、まちのイメージとしては、市民と事業者との間に大きなギャップが存在し、市民は事業者より、新百合ヶ丘が「文化的なまち」「芸術のまち」であり、「若い人向け」「自然が多い」イメージを持っている、といった結果が報告された。

【決定事項】

「芸術・文化のまちづくり」については、上記の報告書も利用して、調査審議を進める。次回部会では、報告書掲載の「課題」部分を追加資料として提出する。

【主な意見】

- ・姉妹都市の事例研究も参考になるのではないか。
- ・オーストリアのザルツブルグ市では、学校で音楽教育を行っていないが、学校の外に音楽の天才を育てるシステムがある。

(3) その他

今後の部会開催日時を確認した。

第4回部会：1月11日（金）18時～

第5回部会：2月12日（火）18時～

第6回部会：3月11日（月）18時～

第7回部会：4月8日（月）18時～

（すべて麻生区役所4階第4会議室にて）

以上